

令和4年度 ボランティア活動奨励賞受賞団体一覧

1	団体名	鷹取山自然観察会		
	代表者	本多 久男		
	所在地	横須賀市	活動開始時期	2011年4月
	活動分野	環境の保全		
	活動の概要	自然観察会の開催やガイドブックの作成により、子どもたちに自然の大切さを学んでもらう活動の実施		
選考理由	<p>宅地開発が進む里山地域で自然に親しむ機会をつくり、環境保全のための活動を長く積み重ねてこられたこと、特に、自然観察会にとどまらずガイドブックや生き物調査の報告書、リーフレット等の作成により情報発信を積極的に行われていることを高く評価しました。</p> <p>また、長く活動している団体の多くが世代交代の課題を抱えている中で、団体では若い世代や新規参加者を取り込むためのさまざまな工夫を行うとともに、子どもたちへの積極的な働きかけもされています。活動の継続を意識した運営がなされていることも素晴らしいことです。</p> <p>環境保全の活動は地道に継続していくことが重要なことと考えます。これまでの活動を土台に、行政を含む地域の関係団体とも協力をとりながら、住宅地に隣接した貴重な里山環境を維持するための活動が広がっていくことを期待します。</p>			
2	団体名	特定非営利活動法人 相模原こもれび		
	代表者	平野 和夫		
	所在地	相模原市中央区	活動開始時期	2004年4月
	活動分野	環境の保全		
	活動の概要	森の保全活動を行い、木もれびの森として子どもへの体験学習や自然観察会としての場の提供		
選考理由	<p>相模原市の近郊緑地特別保存地区である木もれびの森を「老若男女が庭続き感覚で訪れ、憩い、癒され、学び楽しめる“気持ちのいい森”に導いていく」ために、森の保全管理活動を20年近くの長きにわたり継続されていること、足元において週一の頻度で地道に実施されている点を高く評価しました。</p> <p>加えて、周辺小中学校の学習支援を通じた子どもの健全育成活動や、企業のCSR活動の受け入れ、市民向けの体験講座の開催等による自然保護の普及啓発活動など、団体が掲げた全ての活動目標の実現に、日々努力し、実践していることは、市民活動のお手本ともいえるものではないかと感じました。</p> <p>森の保全管理活動は、それが維持できなければすぐに森が荒廃してしまうことから、今後の活動方針で認識されており、団体の活動の維持継続が大きな課題であること、そして、団体が大事にされている「楽しい活動」が、その課題解決の鍵となることと思います。自然豊かな木もれびの森を、次世代の大切な緑の財産すなわち“気持ちのいい森”として残していけるように、団体の活動が次世代に円滑に継承され、発展していくことを期待します。</p>			
3	団体名	特定非営利活動法人 こどもネットミュージアム		
	代表者	鈴木 晶		
	所在地	横浜市神奈川区	活動開始時期	2011年1月
	活動分野	子どもの健全育成		
	活動の概要	神奈川在住・在所の小学生を対象に、「かながわ夢絵コンテスト」を開催し、子どもたちが想像力や表現力を育む活動の実施		
選考理由	<p>神奈川県在住・在学の小学生を対象とした「かながわ夢絵コンテスト」を、県内の情報サービス業にかかわる業界団体の事業を引き継ぎ、今日まで継続して開催してきたこと、そして、コンテストへの参加を通して、これまで11万人以上に上る子どもたちに未来の夢や希望を思い描く機会を提供してきたことを評価しました。</p> <p>コンテストの開催は、県内を中心とした多くの企業サポーターの協力を得ながら実施されています。「企業サポーター賞」を通して、企業の主体的な参加や応募する</p>			

		<p>子どもたちと企業との接点を作るなど、事業に必要な企業からの支援を継続して得られるようにする工夫は、多くのボランティア団体にとって参考になると思います。また、コンテストの開催に関わる業務から、障がいのある方々の雇用を生み出していることも、学ぶべき取組です。</p> <p>近年は、コンテストとプログラミングワークショップを連動させたり、試験的に「こども未来会議」イベントを開催したりするなど、コンテストの開催にとどまらない新しい取組も進めてきています。奨励賞の受賞が、このコンテストがより多くの人たちに知られるようになり、また、新たな企業サポーターの獲得に結びつくなど、団体の活動基盤やプログラムの充実・発展につながることを期待します。</p>		
4	団体名	子どもと親の環境教室「地球っ子ひろば」		
	代表者	齋藤 美代子		
	所在地	平塚市	活動開始時期	2002年4月
	活動分野	環境の保全		
	活動の概要	地域の小学校で「エコかるた」を通して、地球温暖化を学ぶ場の提供		
選考理由	<p>20年という長い間、地域で環境教育に携わってきたことが評価されました。団体が挙げていた「エコかるた」を使った学習以外の活動にも工夫があり、子どもたちに対し、身近なところから地球環境という大きなものに関心を持つ道筋を丁寧に示せていると感じました。団体の運営についても、構成員は決して多くはないものの、地域の大学生を巻き込んだり、かつて参加し、成長した若者への声かけを検討したりと、若返りも視野に入れながら安定した活動の実施を考えているという印象がありました。</p> <p>これだけ長期にわたる活動です。積み重ねた経験や知見も高いと推察します。今後は、限られた地域だけでなく、もう少し広い範囲での活動を考えてみるのも団体にとってプラスになると思います。また、現在は「考えていない」という助成金の獲得などについても検討してみたいかでしょうか。新型コロナウイルス禍による資金面での不自由なども一定程度解決が見込めると思いますし、何よりも団体の活動は、そういった場で評価されるにふさわしいものだと考えます。</p> <p>これからも団体を立ち上げた皆さんに加え、若い力も入れながら、子どもたちにすてきな学びの場を提供してくれることを期待します。</p>			
5	団体名	一般社団法人 4Hearts		
	代表者	那須 かおり		
	所在地	茅ヶ崎市	活動開始時期	2019年9月
	活動分野	まちづくりの推進		
	活動の概要	聴覚障害者のために「スローコミュニケーションプロジェクト」の啓発活動の実施		
選考理由	<p>2020年(令和2年)に団体を設立されてから活動年月は短いものの、「スローコミュニケーションプロジェクト」というコンセプトのもと、地元茅ヶ崎市内で行政や関係団体、市民と協力してさまざまな取組を実践されていること、また、大学や企業とも連携した活動を進めている点を評価しました。</p> <p>特に、2022年10月に行われた茅ヶ崎市長選挙では市の選挙管理委員会と話し合い、茅ヶ崎市聴覚障害者協会と協力してコミュニケーションボードを提案して市内すべての投票所で利用されるなど、選挙管理委員会等に働きかけていることも、スピード感のある取組だと思います。また、ヘッドホンを利用した聴覚障がい体験と、アートや書道と結びつけた体験型ワークショップも団体ならではのユニークな取組だと思います。</p> <p>聴覚障がいのある方にとってのコミュニケーション課題だけでなく、加齢にともなう聴力の衰えや、様々な理由で声を出すのに抵抗のある人も対象としたインクルーシブな視点と、社会サービスに関わる人々の意識改革を社会に潜む課題と捉えている活動に、新しい可能性を感じました。この活動を息長く続けていただき、神奈川県がめざしている「共に生きる」社会の実現に向けた取組と連携、協働していくことを期待します。</p>			